



大塚貢—おつか・まさひこ

昭和11年長野県生まれ。35年信州大学卒業後、中学校教員を経て、東京都内で会社員生活を送る。その後、長野に戻り、県教育委員会指導主事、中学校教頭を経て、平成4年から校長に。9年旧真田町教育長就任。市町村合併後、18年より上田市教育委員長。19年退任後、現在は教育・食育アドバイザーとして活躍。

櫻井よしこ—さくらい・よしこ

昭和20年ベトナム生まれ。ハワイ州立大学歴史学部卒業後、「クリスチャン・サイエンス・モニター」紙東京支局勤務。日本テレビニュースキャスター等を経て、現在はフリージャーナリストとして活躍。薬害エイズ、個人情報保護法、道路公団民営化、北朝鮮拉致問題等に積極的に取り組み、発言している。教育問題への関心も高い。著書に「日本人の美德 誇りある日本人になろう」(宝島社)他多数。最新刊は「異形の大国中国 彼らに心を許してはならない」(新潮社)。

教育現場の工夫用力

子どももたちを 甦らせる

上田市前教育委員長

ジャーナリスト

対談 大塚貢&櫻井よしこ

長野県上田市真田町。現在この小さな町は非行・犯罪ゼロ、いじめもゼロ、そして全国平均より抜きん出て学力が高いという。

「以前は非行・犯罪が絶えなかった」と話す前教育委員長の大塚貢氏は、「授業改善、米飯給食、花づくり」によって子どもたちの心身を甦らせた。

氏の教育手腕に共鳴するジャーナリストの櫻井よしこさんとともに、混乱する日本の教育問題に希望の光を与えるべく、

真田町の教育改革についてお話しいただいた。

もはや非行ではなく 立派な犯罪

櫻井 大塚先生と初めてお目にかかったのは五年ほど前になります。でしようか。長野県の真田町(現・上田市真田町)の中学校の校長先生をしてもらった頃のお話を聞いて、ビックリしたんですね。朝礼などで子どもたちが貧血で倒れるので、きつと家での食事が不十分であるに違いないと思われ、食生活について調査したところ、問題を起こしているお子さんほど食生活が乱れていることが分かった。

そういう時、普通の校長先生なら親御さんに「食生活をきちんとしてやってください」と言うだけですが、先生は自ら先頭に立って給食の改善に手をつけられた。パン食を米飯に変えたところ、子どもたちが元気になり問題行動も減っていったとお聞きして、これはすごい話だなあと。

その後、真田町の教育長になられてからは、一校だけでなく町内

